

- ルトランスポーターNPC1L1 による
ビタミンEの消化管吸収. *ビタミン*.
84(8): 376-383, 2010.
49. 市田公美. 【臨床医のための高尿酸血症・痛風のABC】 その他 健康診断で血清尿酸値の低い人がいます。何か不都合はありますか? *高尿酸血症と痛風*. 20: 78-80, 2012.
 50. 市田公美. 尿酸代謝異常症の最前線 *Bio Clinica*. 27: 124-129, 2012.
 51. 市田公美. 併存疾患別にみた高尿酸血症治療・管理のあり方 腎障害・慢性腎臓病 (CKD) 合併例 *Progress in Medicine*. 32: 41-46, 2012.
 52. 市田公美. 低尿酸血症. *痛風と核酸代謝*. 35: 159-168, 2011.
 53. 市田公美. 腎性低尿酸血症. *腎臓*. 34: 10-15, 2011.
 54. 市田公美. 尿酸代謝における最近のトピックス-尿酸代謝の新たな展開- Glucose transporter family member SLC2A9 と血清尿酸値. *高尿酸血症と痛風*. 19: 109-114, 2011.
 55. 市田公美. 腎における尿酸トランスポーター. *日本医師会雑誌*. 140: 316, 2011.
 56. 市田公美. 尿細管疾患の臨床 遺伝性低尿酸血症. *日本腎臓学会誌*. 53(2): 142-145, 2011.
 57. 市田公美. 尿酸トランスポーター. *内分泌・糖尿病・代謝内科*. 33(5): 468-474, 2011.
 58. 市田公美. 腎臓症候群 高尿酸血症に伴う腎障害. *日本臨床 別冊*. 342-345, 2011.
 59. 市田公美. 腎臓症候群 キサンチン尿症. *日本臨床 別冊*. 365-368, 2011.
 60. 市田公美. 腎臓症候群 腎性低尿酸血症 (特発性、続発性). *日本臨床 別冊*. 842-845, 2011.
 61. 市田公美. 高尿酸血症を管理・治療する わが国の高尿酸血症の管理・治療と世界の現状. *Mebio*. 28: 94-100, 2011.
 62. 市田公美. 尿酸と高血圧 臓器障害リスクプレーヤーとしてのキサンチンオキシダーゼ. *血圧*. 18: 618-621, 2011.
 63. 市田公美. 高尿酸血症のマネジメント-臓器障害の観点から 尿酸排泄促進薬. *カレントセラピー*. 29: 635-641, 2011.
 64. 市田公美. 私の処方 急性痛風関節炎. *Modern Physician*. 31: 1253, 2011.
- 【学会発表】
65. Ichida K. Molecular characterization in Japanese patients with classical xanthinuria. *European Human Genetics Conference 2011*. Amsterdam, Netherlands, 2011.5.28-2011.5.31.
 66. 菅憲広, 大林孝彰, 渡辺勇次郎, 藤井幹子, 北川渡, 今井裕一, 山田晴生, 市田公美. 運動後急性腎不全をきたした腎性低尿酸血症の1例. *第216回日本内科学会 東海地方会例会*. 名古屋, 2011.2.4.
 67. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 山田裕一, 市田公美. 液体クロマトグラフィー-タンデム質量分析法による赤血球中ホスホリピロリン酸の定量法の開発. *第45回日本痛風・*

- 核酸代謝学会学術集会. 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
68. 中村真希子, 荒川伸介, 松尾広大, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. Fluorescein を用いた尿酸トランスポーター機能評価法の開発. **第45回日本痛風・核酸代謝学会学術集会**. 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
69. 宮崎聡, 山本康孝, 浜田紀宏, 水田栄之助, 太田原顕, 荻野和秀, 加藤雅彦, 市田公美, 山本一博, 久留一郎. イルベサルタンが降圧不十分な高血圧患者の尿酸代謝に及ぼす効果の検討. **第45回日本痛風・核酸代謝学会学術集会**. 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
70. 古林由生, 山浦千恵, 飛田将希, 中村真希子, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における活性酸素障害仮説の検討. **第85回日本薬理学会年会** 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
71. 中村真希子, 荒川伸介, 松尾広大, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. 蛍光化合物を用いた有機アニオントランスポーター機能評価法の開発. **第85回日本薬理学会年会** 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
72. 中村真希子, 武居宏樹, 細野彩奈, 市田公美. ウリカーゼ融合タンパク質を用いた尿酸の蛍光検出法の開発. **日本化学会第92春季年会**. 横浜, 2012.3.25-2012.3.28.
73. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 山田裕一, 市田公美. 赤血球中ホスホリボシルピロリン酸の LC-MS/MS を用いた直接定量. **日本薬学会第132年会**. 札幌, 2012.3.28-2012.3.31.
74. 荒川伸介, 中村真希子, 細山田真, 齋藤英胤, 市田公美. 蛍光イメージングを用いた尿酸トランスポーター機能解析法の開発. **第6回日本分子イメージング学会学術集会**. 神戸, 2011.5.24-2011.5.25.
75. 安西尚彦, Jutabha P, 木村徹, 北村健一郎, 市田公美. 新規ヒト尿酸/有機酸トランスポーターURAT2 の分子同定. **第54回日本腎臓学会学術総会**. 横浜, 2011.6.15-2011.6.17.
76. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 中村真希子, 市田公美. LC-MS/MS による赤血球中 5-phosphoribosyl-1-pyrophosphate の定量法の開発. **日本分析化学会第60年会**. 名古屋, 2011.9.14-2011.9.16.
77. 長谷川弘, 篠原佳彦, 田村優香, 金子知由, 橋本隆男, 市田公美. GC-MS による重水素標識及び非標識メチオニン及びホモシステインの同時定量法の開発. **日本分析化学会第60年会**. 名古屋, 2011.9.14-2011.9.16.
78. 荒川伸介, 中村真希子, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. 蛍光化合物を用いた尿酸トランスポーター動態評価法の開発. **第84回日本生化学会大会**. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
79. 武居宏樹, 中村真希子, 市田公美. 蛍光タンパク質プローブを用いた尿酸の蛍光検出法の開発. **第84回日本生化学会大会**. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
80. 飛田将希, 中村真希子, 長谷川弘, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における腎血管収縮の寄与の検討.

- 第 84 回日本生化学会大会. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
81. 吉川和寛, 中村雅将, 土田健司, 水口潤, 市田公美. URAT1 coding region に G774A heterozygous mutation を見出した運動後急性腎不全の一例. **第 41 回日本腎臓学会西部学術大会**. 徳島, 2011.9.30-2011.10.1.
82. 植木研次, 永江洋, 下村有希子, 片淵律子, 市田公美. 脱水による急性腎不全をきたし, URAT1 遺伝子変異を同定しえた腎性低尿酸血症の一例. **第 41 回日本腎臓学会西部学術大会**. 徳島, 2011.9.30-2011.10.1.
83. 中村真希子, 飛田将希, 長谷川弘, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における腎血管収縮の寄与の検討. **第 128 回成医会総会**. 東京, 2011.10.6-2011.10.7.
84. 上竹大二郎, 山口雄一郎, 西川元, 疋田美穂, 岡部英明, 五味秀穂, 市田公美, 大野岩男, 細谷龍男. フェノフィブラートの尿酸代謝と URAT1 に及ぼす影響. **第 128 回成医会総会**. 東京, 2011.10.6-2011.10.7.
85. 中村真希子, 武居宏樹, 市田公美. ウリカーゼ融合タンパク質を用いた尿酸の蛍光検出法の開発. **第 33 回日本バイオマテリアル学会大会**. 京都, 2011.11.21-2011.11.22.
86. 市田公美. 血清尿酸値低下のメカニズムとイルベサルタンの新しい知見—尿酸取り込み阻害作用. **第 54 回日本腎臓学会学術総会 ランチョンセミナー**. 横浜, 2011.6.17.
87. 市田公美. 尿酸トランスポーターについての最近の話題. **長崎県病院薬剤師会学術講演会**. 長崎, 2011.7.6.
88. 市田公美. 血清尿酸値低下のメカニズムとイルベサルタンの新しい知見—尿酸取り込み阻害作用. **アバプロ発売 3 周年記念講演会**. 名古屋, 2011.7.23.
89. 市田公美. 教育講演 高尿酸血症の成因と治療 **第 5 回日本腎と薬剤研究会学術大会 2011**. 北九州, 2011.9.18.
90. 市田公美. 高尿酸血症と内科疾患—メタボリックシンドロームと CKD. **日本橋医師会学術講演**. 東京, 2011.9.21.
91. 市田公美. 痛風、高尿酸血症と肥満. **第一工業株式会社秋期労働衛生講習会**. 東京, 2011.10.17.
92. 市田公美. ARB に求められる付加価値—アバプロの尿酸トランスポーター (URAT1) 阻害作用. **アバプロ発売 3 周年記念講演会 Power&Protection の証明**. 福岡, 2011.7.16.
93. 市田公美. 危険因子としての高尿酸血症. **小石川地区フェブリク発売記念講演会**. 東京, 2011.10.21.
94. 市田公美. 高尿酸血症の病態と治療薬. **栃木県薬剤師会・栃木県病院薬剤師会学術講演会**. 宇都宮, 2011.10.27.
95. 市田公美. 危険因子としての高尿酸血症—CKD 及び CVD との関係から最新の尿酸降下療法まで. **天理地区医師会定例会講演会**. 天理, 2011.10.29.
96. 内海由貴, 松尾洋孝, 岡田千沙, Sander SE, Richter A, 中山昌喜, 加藤八重, 寺重翔, 鎌倉恵子, 四ノ宮成

- 祥. 不随意運動モデルハムスター^{dt^{sz}}における病因分子の探索. **第 89 回日本生理学会大会**. 松本, 2012.3.29-2012.3.31.
97. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 河村優輔, 井上寛規, 松村耕治, 四ノ宮成祥, 小林靖. 痛風リスク遺伝子検査法の確立. **第 22 回生物試料分析科学会年次学術集会**. 福岡, 2012.3.10-2012.3.11.
98. Matsuo H, Takada Y, Nakayama A, Utsumi Y, Shinomiya N. Genotyping ABCG2 to estimate gout risk for practical use in the clinical setting. **4th Federation of European Biochemical Societies (FEBS) special meeting on ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins (ABC2012)**. Innsbruck, Austria, 2012.3.3-2012.3.9.
99. Nakayama A, Matsuo H, Ichida K, Takada T, Takada Y, Nakashima H, Nakamura T, Sakurai Y, Hamajima N, Suzuki H, Shinomiya N. Changes in uric acid levels with dysfunctional ABCG2 and novel pathophysiological model of hyperuricemia. **4th Federation of European Biochemical Societies (FEBS) special meeting on ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins (ABC2012)**. Innsbruck, Austria, 2012.3.3-2012.3.9.
100. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 四ノ宮成祥, 鈴木晟幹. 実用化に向けた痛風リスク遺伝子タイピング. **第9回臨床福祉研究学術集会**. 東京, 2012.2.25-2012.2.26.
101. 中山昌喜, 松尾洋孝, 市田公美, 高田龍平, 井上寛規, 岡田千沙, 四ノ宮成祥. 大規模健診サンプルを用いた ABCG2 遺伝子多型と血清尿酸値との関連解析. **第 45 回日本痛風・核酸代謝学会総会**. 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
102. 佐々木裕明, 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 高島瑤子, 内海由貴, 河村優輔, 四ノ宮成祥. 痛風遺伝子 ABCG2 の迅速診断法の確立. **第 57 回防衛衛生学会**. 東京, 2012.2.2.
103. 寺重翔, 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 小縣開, 加藤八重, 尾上裕行, 海田賢一, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 不随意運動モデルハムスター^{dt^{sz}}における候補遺伝子 *MR-1* の解析. **第 57 回防衛衛生学会**. 東京, 2012.2.2.
104. 中山昌喜, 松尾洋孝, 及川雄二, 高田雄三, 中島宏, 中村好宏, 井上寛規, 森厚嘉, 内藤真理子, 菱田朝陽, 若井建志, 丹羽和紀, 櫻井裕, 浜島信之, 四ノ宮成祥. 痛風病因遺伝子 ABCG2 の変異と血清尿酸値との関連. **第 22 回日本疫学会学術総会**. 東京, 2012.1.26-2012.1.28.
105. 高田雄三, 松尾洋孝, 藤井安宇美, 井上寛規, 中山昌喜, 松村耕治, 鈴木洋史, 濱嶋信之, 四ノ宮成祥, 丹羽和紀, 小林靖. High Resolution Melting 法による ABCG2 遺伝子の SNP タイピング. **日本DNA多型学会第20回学術集会**. 横浜, 2011.12.1-2011.12.2.
106. 松尾洋孝. 痛風・高尿酸血症の主要病

- 因遺伝子の同定と病態の解明. *東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科リサーチカンファランス*. 東京, 2011. 11.29.
107. 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 河村優輔, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性ジストニー性舞踊アテトーゼの病因分子の探索; 家系症例と疾患モデル動物の遺伝学的解析. *日本人類遺伝学会第56回大会*. 千葉, 2011.11.9-2011.11.12.
108. Okada C, Matsuo H, Sander SE, Hamann M, Richter A, Hamada T, Nakayama A, Utsumi Y, Kawamura Y, Onoue H, Kaida K, Kobayashi Y, Kamakura K, Shinomiya N. Molecular pathogenesis for paroxysmal involuntary movements as a channelopathy. genetic analysis of human cases and an animal model. *2011 International congress of human genetics*. Montreal, Canada, 2011.10.11-2011.10.15.
109. 松尾洋孝. *ABCG2* の遺伝子多型と痛風リスク. *第84回生化学会シンポジウム*. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
110. 岡田千沙, 松尾洋孝, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 河村優輔, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性神経疾患をきたす膜輸送体病の病因分子の探索. *第84回日本生化学会大会*. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
111. 四ノ宮成祥, 吉森篤史, 高橋哲, 中山昌喜, 松尾洋孝, 守本祐司, 佐伯和徳, 高澤涼子, 田沼靖一. Met チロシンキナーゼを標的とした低分子抗腫瘍薬開発の試み. *第29回日本ヒト細胞学会学術集会*. 富山, 2011.8.20-2011.8.21.
112. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Utsumi Y, Sakurai Y, Hosoya T, Suzuki H, Kanai Y, Shinomiya N. Gout is caused by common dysfunctional variants of *ABCG2/BCRP*. *BioMedical Transporters 2011*. Grindelwald, Switzerland, 2011.8.7-2011.8.11.
113. 四ノ宮成祥, 中山昌喜, 松尾洋孝, 守本祐司, 藤田真敬, 立花正一, 鈴木信哉. 細胞培養系を用いた一酸化炭素中毒神経障害メカニズム解析の試み. *第8回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会*. 東京, 2011.8.5.
114. 松尾洋孝. 尿酸排泄トランスポーター-*ABCG2/BCRP*: 痛風の主要病因と個人裁量の展望. *金沢大学薬学シンポジウム 2011 -創薬動態フォーラム in 金沢*. 金沢, 2011.7.29.
115. 松尾洋孝. 痛風の主要病因遺伝子 *ABCG2/BCRP* の解明とオーダーメイド医療の可能性. *流山市医師会学術講演会*. 流山, 2011.6.15.
116. 河村優輔, 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性神経疾患をきたす膜輸送体病. 大家系症例の臨床遺伝学的解析と疾患モデル動物の評価.

- 第6回トランスporter研究会年会。仙台, 2011.6.11-2011.6.12.
117. 松尾洋孝. 痛風・高尿酸血症の新規診断・治療ターゲット: 主要病因遺伝子 *ABCG2/BCRP*. 第2回福岡核酸代謝研究会. 福岡, 2011.6.9.
118. 高田雄三, 松尾洋孝, 丹羽和紀, 四ノ宮成祥. 痛風リスク遺伝子の迅速 SNP タイピング. 第60回日本医学検査学会. 東京, 2011.6.4-2011.6.5.
119. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Chiba T, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Utsumi Y, Suzuki K, Watanabe S, Sakurai Y, Hosoya T, Suzuki H, Hamajima N, Shinomiya N. ABCG2 is a major causative gene for gout. *The 1st Symposium of Asia Pacific League of Associations for Rheumatology (APLAR)*. Taipei, Taiwan, 2011.4.15-2011.4.17. **【Young Investigator Award 受賞】**
120. Takada T, Suzuki H. Molecular Mechanisms of Transporters for Bile Formation and Related Liver Diseases. *22nd Congress of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012)*. Taipei, Taiwan, 2012.2.16-2012.2.19.
121. Takada T, Yamanashi Y, Suzuki H. Functional associations of ABCG5/G8, NPC1L1 and NPC2 in biliary cholesterol secretion. *ABC2011 in Kyoto – ABC Proteins/ Membrane Meso-domains/ES-iPS cells*. Kyoto, 2011.11.16-2011.11.17.
122. Takada T, Yamanashi Y, Suzuki H. Functional associations of NPC1L1, NPC2 and ABCG5/G8 in biliary cholesterol secretion. *The 1st HD Physiology International Symposium: Integrative Multi-level Systems Biology for In Silico Cardiology and Pharmacokinetics*. Tokyo, 2012.1.20-2012.1.21.
123. Takada T, Yamanashi Y, Yoshikado T, Suzuki H. Functional interactions of ABCG5/ABCG8, NPC1L1 and NPC2 in the biliary secretion of cholesterol. *International Symposium on Past, Present and Future of Molecular Pharmacokinetics (PPF) – Integration of Basic Science, Drug Development and Regulation*. Tokyo, 2012.1.16-2012.1.18.
124. 高田龍平. 生活習慣病関連物質のトランスporterによる体内動態制御に関する研究. Transporter-mediated regulation of pharmacokinetics of life style-related substances. *日本薬学会第132年会*. 札幌, 2012.3.28-2012.3.31. **【奨励賞受賞記念講演】**
125. 首藤剛, 鈴木伸悟, 佐藤卓史, 杉山崇, 金子雅幸, 高田龍平, 鈴木洋史, 楠原洋之, 杉山雄一, Suico MA, 甲斐広文. ER quality control of disease-associated ABC Transporters. 疾患関連 ABC トランスporterの小胞体品質管理機構. 第85回日本薬理学会年会. 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
126. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレ

- ステロールトランスポーター NPC1L1 は NPC2 タンパク質を負に制御する. *日光シンポジウム*. 日光, 2011.12.17-2011.12.18.
127. 高田龍平, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. ビタミン K の消化管吸収阻害を介した薬物間相互作用に関する研究. *日光シンポジウム*. 日光, 2011.12.17-2011.12.18.
128. 伊藤雅方, 山梨義英, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節における役割. *日光シンポジウム*. 日光, 2011.12.17-2011.12.18.
129. 伊藤雅方, 山梨義英, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 *Stard10* 欠損マウスにおける胆汁分泌と再吸収の変化. Loss of the steroidogenic acute regulatory protein-related lipid transfer (START) domain containing 10 (*Stard10*) gene alters biliary secretion and intestinal absorption of bile acids in mice. **第34回日本分子生物学会年会**. 横浜, 2011.12.13-2011.12.16.
130. Takada T, Konishi K, Yamanashi Y, Yamamoto T, Suzuki H. Drug-drug interaction between ezetimibe and warfarin mediated by vitamin K absorption. **第5回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム**. 名古屋, 2011.11.26-2011.12.27.
131. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレステロールの胆汁分泌制御における NPC1L1・NPC2・ABCG5/G8 の機能連関. **第33回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム**. 岡山, 2011.11.24-2011.11.25.
132. 高田龍平. Regulatory mechanisms of bile lipids transport in the small intestine and liver. 消化管および肝臓におけるトランスポーターを介した胆汁脂質動態制御機構の解析. **第26回日本薬物動態学会年会**. 広島, 2011.11.16-2011.11.18. **【奨励賞受賞記念講演】**
133. 吉門崇, 高田龍平, 伊藤晃成, 三田智文, 鈴木洋史. Involvement of MRP2/ABCC2-mediated bile flow in the ticlopidine-induced alteration of bile composition. チクロピジンによる胆汁組成の変動における MRP2/ABCC2 の関与. **第26回日本薬物動態学会年会**. 広島, 2011.11.16-2011.11.18.
134. Takada T. ABCG5/G8- and NPC1L1-mediated regulation of biliary secretion of cholesterol as pharmacological targets. **Department of Molecular Pharmacokinetics 39th Mini-Symposium**. 東京, 2011.9.27.
135. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレステロールトランスポーター NPC1L1 は NPC2 タンパク質の負の制御因子である. NPC1L1 functions as a negative regulator of NPC2 protein. **第84回日本生化学会大会**. 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
136. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレ

- ステロール結合蛋白質 NPC2 は ABCG5/G8 依存的なコレステロール胆汁排泄を促進する. **第5回トランスポーター研究会九州部会**. 宮崎, 2011. 9.17.
137. **高田龍平**, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. エゼチミブによるビタミン K 吸収阻害作用を介した薬物間相互作用に関する研究. **第5回トランスポーター研究会九州部会**. 宮崎, 2011.9.17.
138. **Takada T**, Yamanashi Y and Suzuki H. Niemann-Pick C2 stimulates the ABCG5/G8-mediated cholesterol secretion into bile. **第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会**. 札幌, 2011. 7.15.-2011.7.16.
139. **高田龍平**, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. エゼチミブとワルファリンの薬物間相互作用に関する研究. **医療薬学フォーラム 2011/第19回クリニカルファーマシーシンポジウム**. 旭川, 2011.7.9-2011.7.10.
140. 伊藤雅方, 山梨義英, **高田龍平**, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 Stard10/PCTP-L の胆汁調節における役割. **第6回トランスポーター研究会年会**. 仙台, 2011.6.11-2011.6.12.
141. 山梨義英, **高田龍平**, 鈴木洋史. コレステロール結合蛋白質 NPC2 による ABCG5/G8 依存的なコレステロール胆汁排泄促進作用. **第53回日本脂質生化学会**. 東京, 2011.5.12-2011.5.13.
- 【原著論文】
142. Stiburkova B, **Ichida K**, Sebesta I. Novel homozygous insertion in SLC2A9 gene caused renal hypouricemia. *Mol Genet Metab.* 102(4): 430-435, 2011.
143. Wakai K, **Hamajima N**, Okada R, Naito M, Morita E, Hishida A, Kawai S, Nishio K, et al. Profile of participants and genotype distributions of 108 polymorphisms in a cross-sectional study of associations of genotypes with lifestyle and clinical factors: a project in the Japan multi-institutional collaborative cohort (J-MICC) study. *J Epidemiol.* 21(3): 223-235, 2011
144. Hosoyamada M, Takiue Y, Morisaki H, Cheng J, Ikawa M, Okabe M, Morisaki T, **Ichida K**, Hosoya T, Shibasaki T. Establishment and analysis of SLC22A12 (URAT1) knockout mouse. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 29(4-6): 314-320, 2010.
145. 塚田愛, 木村徹, Promsuk J, 安西尚彦, **市田公美**, 櫻井裕之. 尿酸トランスポーターURAT1 トランスジェニックマウスにおける尿酸の体内動態. **痛風と核酸代謝**. 34: 171-177, 2010.
146. Nakamura M, Anzai N, Jutabha P, Sato H, Sakurai H, **Ichida K**. Concentration-dependent inhibitory effect of irbesartan on renal uric acid transporters. *J Pharmacol Sci.* 114(1): 115-118, 2010.
147. Uetake D, Ohno I, **Ichida K**, Yamaguchi Y, Saikawa H, Endou H, Hosoya T. Effect of fenofibrate on uric acid metabolism and urate transporter 1.

<平成22年度業績>

- Intern Med.* 49(2): 89-94, 2010.
148. Nindita Y, Hamada T, Bahrudin U, Hosoyamada M, **Ichida K**, Iwai C, Urashima S, Kuwabara N, Utami SB, Mizuta E, Yamada K, Igawa O, Shigemasa C, Ninomiya H, Tsuchihashi T, Hisatome I. Effect of losartan and benzbromarone on the level of human urate transporter 1 mRNA. *Arzneimittelforschung.* 60(4): 186-188, 2010.
149. Matsukawa T, Hasegawa H, Shinohara Y, Kobayashi J, Shinohara A, Chiba M, **Ichida K**, Yokoyama K. Synthesis of D- and L-selenomethionine double-labeled with deuterium and selenium-82. *Chem Pharm Bull.* 58(12): 1658-1660, 2010.
150. Hasegawa H, Shinohara Y, Akahane K, Hashimoto T, **Ichida K**. Altered D: -methionine kinetics in rats with renal impairment. *Amino Acids.* 40(4): 1205-1211, 2011.
151. Gümüş H, Ghesquiere S, Per H, Kondolot M, **Ichida K**, Poyrazoğlu G, Kumandaş S, Engelen J, Dundar M, Çağlayan AO. Maternal uniparental isodisomy is responsible for serious molybdenum cofactor deficiency. *Dev Med Child Neurol.* 52(9): 868-872, 2010.
152. Carmi-Nawi N, Malinger G, Mandel H, **Ichida K**, Lerman-Sagie T, Lev D. Prenatal brain disruption in molybdenum cofactor deficiency. *J Child Neurol.* 26(4): 460-464, 2011.
153. Hasegawa H, Shinohara Y, Masuda N, Hashimoto T, **Ichida K**. Simultaneous determination of serine enantiomers in plasma using Mosher's reagent and stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry. *J Mass Spectrom.* 46(5): 502-507, 2011.
154. Shinohara Y, Hasegawa H, Kaneko T, Tamura Y, Hashimoto T, **Ichida K**. Analysis of [²H₇]methionine, [²H₄]methionine, methionine, [²H₄]homocysteine and homocysteine in plasma by gas chromatography-mass spectrometry to follow the fate of administered [²H₇]methionine. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 878(3-4): 417-422, 2010.
155. Shinohara Y, Hasegawa H, Hashimoto T, **Ichida K**. Synthesis of optically active deuterium-labeled homocysteine thiolactone. *J Label Compd Radiopharm.* 53: 552, 2010.
156. Yoshikado T, **Takada T**, Yamamoto T, Yamaji H, Ito K, Santa T, Yokota H, Yatomi Y, Yoshida H, Goto J, Tsuji S, Suzuki H. Itraconazole-induced cholestasis: involvement of the inhibition of bile canalicular phospholipid translocator MDR3/ ABCB4. *Mol Pharmacol.* 79(2): 241-250, 2011.
157. Iwayanagi Y, **Takada T**, Tomura F, Yamanashi Y, Terada T, Inui KI, Suzuki H. Human NPC1L1 expression is positively regulated by PPARα. *Pharm Res.* 28(2): 405-412, 2011.
158. **Takada T**, Suzuki H. Molecular

- mechanisms of membrane transport of vitamin E. *Mol Nutr Food Res*. 54(5): 616-622, 2010.
159. Ikebuchi Y, Ito K, **Takada T**, Anzai N, Kanai Y, Suzuki H. Receptor for activated C-kinase 1 regulates the cell surface expression and function of ATP binding cassette G2. *Drug Metab Dispos*. 38(12): 2320-8, 2010.
160. Yamanashi Y, **Takada T**, Yoshikado T, Shoda J, Suzuki H. NPC2 regulates biliary cholesterol secretion via stimulation of ABCG5/G8-mediated cholesterol transport. *Gastroenterology*. 140(5): 1664-1674, 2011.
161. Shi D, Zheng Q, Chen D, Zhu L, Qin A, Fan J, Liao J, Xu Z, Lin Z, Norman P, Xu J, **Nakamura T**, Dai K, Zheng M, Jiang Q. Association of single-nucleotide polymorphisms in HLA class II/III region with knee osteoarthritis. *Osteoarthritis Cartilage*. 18(11): 1454-1457, 2010.
162. Hotta K, Nakamura M, **Nakamura T**, Matsuo T, Nakata Y, Kamohara S, Miyatake N, Kotani K, et al. Polymorphisms in NRXN3, TFAP2B, MSRA, LYPLAL1, FTO and MC4R and their effect on visceral fat area in the Japanese population. *J Hum Genet*. 55(11): 738-742, 2010.
163. **Nakamura T**. Commentary to 'a remark on rare variants'. *J Hum Genet*. 55(5): 263-264, 2010.
164. Bakris G, Vassalotti J, Ritz E, Wanner C, Stergiou G, Molitch M, Nesto R, Kaysen GA, Sowers JR; CKD Consensus Working Group. National Kidney Foundation consensus conference on cardiovascular and kidney diseases and diabetes risk: an integrated therapeutic approach to reduce events. *Kidney Int*. 78(8): 726-736, 2010.
165. Hisada T, Miyagawa T, Yakushiji T, Tsujimoto T, Sakai M, Adachi T, **Ikewaki K**, Ogata K, Ohsuzu F, Sakurai Y. Ventricular fibrillation diagnosed during electrophysiological study for non-sustained tachycardia. *Aviat Space Environ Med*. 81(6): 593-596, 2010.
166. Yoshida H, Shimizu M, **Ikewaki K**, Taniguchi I, Tada N, Yoshimura M, Rosano G, Dahlof B, Mochizuki S; Jikei Heart Study group. Sex differences in effects of valsartan administration on cardiovascular outcomes in hypertensive patients: findings from the Jikei Heart Study. *J Hypertens*. 28(6): 1150-1157, 2010.
167. Millar JS, **Ikewaki K**, Bloedon LT, Wolfe ML, Szapary PO, Rader DJ. Effect of rosiglitazone on HDL metabolism in subjects with metabolic syndrome and low HDL. *J Lipid Res*. 52(1): 136-142, 2011.
168. Nakaya K, Ayaori M, Uto-Kondo H, Hisada T, Ogura M, Yakushiji E, Takiguchi S, Terao Y, Ozasa H, Sasaki M, Komatsu T, Ohsuzu F, **Ikewaki K**. Cilostazol enhances macrophage reverse cholesterol transport in vitro and in vivo. *Atherosclerosis*. 213(1): 135-141, 2010.

169. Uto-Kondo H, Ayaori M, Ogura M, Nakaya K, Ito M, Suzuki A, Takiguchi S, Yakushiji E, Terao Y, Ozasa H, Hisada T, Sasaki M, Ohsuzu F, **Ikewaki K**. Coffee consumption enhances high-density lipoprotein-mediated cholesterol efflux in macrophages. *Circ Res*. 106(4): 779-787, 2010.
170. Tanaka M, Kinoshita M, Yoshihara Y, **Shinomiya N**, Seki S, Nemoto K, Morimoto Y. Influence of intra-articular neutrophils on the effects of photodynamic therapy for murine MRSA arthritis. *Photochem Photobiol*. 86(2): 403-409, 2010.
171. Hirao A, Sato S, Saitoh D, **Shinomiya N**, Ashida H, Obara M. In vivo photoacoustic monitoring of photosensitizer distribution in burned skin for antibacterial photodynamic therapy. *Photochem Photobiol*. 86(2): 426-430, 2010.
172. Watanabe S, **Matsuo H**, Kobayashi Y, Satoh Y, Fujita M, Nakayama A, Aizawa Y, **Shinomiya N**, Suzuki S. Transient degradation of myelin basic protein in the rat hippocampus following acute carbon monoxide poisoning. *Neurosci Res*. 68(3): 232-240, 2010.
173. Tanaka M, Kinoshita M, Yoshihara Y, **Shinomiya N**, Seki S, Nemoto K, Hamblin MR, Morimoto Y. Photodynamic therapy using intra-articular Photofrin for murine MRSA arthritis: biphasic light dose response for neutrophil-mediated antibacterial effect. *Lasers Surg Med*. 43(3): 221-229, 2011.
174. Nawashiro H, **Shinomiya N**. Everolimus and giant-cell astrocytomas in tuberous sclerosis. *N Engl J Med*. 364(6): 576-577, 2011.
175. Toyooka T, Nawashiro H, **Shinomiya N**, Shima K. Down-regulation of glial fibrillary acidic protein and vimentin by RNA interference improves acute urinary dysfunction associated with spinal cord injury in rats. *J Neurotrauma*. 28(4): 607-618, 2011.
176. Yamamoto T, Kinoshita M, **Shinomiya N**, Hiroi S, Sugawara H, Matsushita Y, Majima T, Saitoh D, Seki S. Pretreatment with ascorbic acid prevents lethal gastrointestinal syndrome in mice receiving a massive amount of radiation. *J Radiat Res*. 51(2): 145-156, 2010.
- 【総説・著書】
177. 山梨義英, **高田龍平**, 鈴木洋史. 薬効標的としての ABC タンパク質. *遺伝子医学MOOK*. 19: 176-181, 2011.
178. **高田龍平**. アドメノート: BCRP/ABCG2 の遺伝子多型と薬物動態変動・痛風発症リスク. *Drug Metabolism Pharmacokinetics*. 25(5): 5-8, 2010.
179. **松尾洋孝**. 第7章 尿酸のトランスポーター. *栄養・食品機能とトランスポーター*. 建帛社. 東京. 145-166, 2011.
180. **松尾洋孝**. トランスポーターの分子機能を指標とした臨床遺伝学的解析による痛風の主要病因遺伝子 ABCG2 の同定. *遺伝子医学 MOOK*. 19: 116-125, 2011.

181. 松尾洋孝. 尿酸の再吸収機構と輸送体病 — ゲノムワイド関連解析後の新展開. *Annual Review 腎臓* 2010. 中外医薬社. 東京. 9-20, 2010.
182. 松尾洋孝. 痛風の病因遺伝子. *痛風と核酸代謝*. 34: 159-169, 2010.
183. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. 痛風の主要な病因遺伝子 ABCG2 の同定. *実験医学*. 羊土社. 東京. 1285-1289, 2010.
184. 中山昌喜, 松尾洋孝, 四ノ宮成祥. 1. 遺伝要因. *内科系総合雑誌 Modern Physician*. 新興医学出版社. 東京. 1385-1388, 2010.
185. 中山昌喜, 松尾洋孝, 四ノ宮成祥. 痛風の遺伝子. *リウマチ科*. 科学評論社. 東京. 689-694, 2010.
186. 松尾洋孝. 3-2-4 尿酸輸送. *トランスポートソームの世界 -膜輸送研究の源流から未来へ-*. 京都廣川書店. 179-191, 2011.
- 【学会発表】
187. Kawamura Y, Matsuo H, Chiba T, Nagamori S, Nakayama A, Inoue H, Domoto H, Kikuchi Y, Oda T, Nishiyama J, Kanai Y, Shinomiya N. Pathogenic GLUT9 mutations in renal hypouricemia type 2. *Gordon Research Conferences on Membrane Transport Proteins*. Biddeford, ME, USA, 2010.8.15-2010.8.20.
188. Nakayama A, Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Ikebuchi Y, Ito K, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. ABCG2/BCRP is a high-capacity urate transporter and its common variant increases serum uric acid levels in humans. *Gordon Research Conference on Membrane Transport Proteins*. Biddeford, ME, USA, 2010.8.15-2010.8.20.
189. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Sakurai Y, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. Common variants of ABCG2/BCRP cause gout. *Gordon Research Conference on Membrane Transport Proteins*. Biddeford, ME, USA, 2010.8.15-2010.8.20.
190. Inoue H, Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Suzuki K, Hosoya T, Suzuki H, Hamajima N, Shinomiya N. ABCG2/BCRP encodes a high-capacity urate transporter and its common variant increases serum uric acid levels in humans. *American Society of Human Genetics Annual Meeting*. Washington DC, USA, 2010.11.2-2010.11.6.
191. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Sakurai Y, Hosoya T, Suzuki H, Shinomiya N. ABCG2/BCRP as a major causative gene for gout. *2010 American Society of Human Genetics Annual Meeting*. Washington DC, USA, 2010.11.2-2010.11.6.
192. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村

- 好宏, 中山昌喜, 草薙恭圭, 高田雄三, 井上寛規, 細谷龍男, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. 尿酸トランスポーターによる尿酸再吸収および排泄の分子機構. **第 87 回日本生理学会大会**. 盛岡, 2010.5.19-2010.5.21.
193. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Suzuki H, Hosoya T, Shinomiya N. ABCG2/BCRP dysfunction as a major cause for gout. *14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man, PP11*. Tokyo, 2011.2.18-2011.2.21. (シンポジウム)
194. Kawamura Y, Matsuo H, Chiba T, Nagamori S, Nakayama A, Inoue H, Utsumi Y, Oda T, Nishiyama J, Kanai Y, Shinomiya N. Pathogenic GLUT9 mutations causing renal hypouricemia type 2 (RHUC2). *14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man, PP11*. Tokyo, 2011. 2.18-2011.2.21.
195. Nakayama A, Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Ikebuchi Y, Ito K, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. ABCG2 is a high-capacity urate transporter and its genetic impairment increase serum uric acid levels in humans. *14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man, PP11*. Tokyo, 2011.2.18-2011.2.21.
【国際学会賞・受賞】
196. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Sakurai Y, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. Identification of ABCG2 dysfunction as a major cause for gout. *14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man, PP11*. Tokyo, 2011.2.18-2011.2. 21.
197. 松尾洋孝. 痛風原因遺伝子の解明. **第1回 佐賀尿酸研究会**. 佐賀, 2010. 4.1.
198. 松尾洋孝. 痛風遺伝子の解明とオーダーメイド医療の可能性～生活習慣病で初の主要病因遺伝子～. **第1回 所沢生活習慣病研究会**. 川越, 2010.5. 17.
199. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. シンポジウム; トランスポーター研究から生活習慣病克服を目指す, 生活習慣病発症に関わる尿酸トランスポーター ～ゲノムワイド解析後の新展開～. **第64回 日本栄養・食糧学会大会**. 徳島, 2010. 5.23.
200. 中山昌喜, 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 池淵祐樹, 伊藤晃成, 高田雄三, 井上寛規, 及川雄二, 河村優輔, 櫻井裕, 細谷龍男, 金井好克, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. ABCG2/BCRP は痛風の主要な病因遺伝子である. **第5回トランスポーター研究会年会**. 東京, 2010.7.10-2010.7.11.
【最優秀発表賞・受賞】
201. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Suzuki H, Shinomiya N. シンポジウム; 疾患の原因そして治療の標的分子としてのトランスポーター, Identification of

- ABCG2/BCRP as major cause for gout. *日本薬物動態学会第25回年会*. 東京, 2010.10.7-2010.10.9.
202. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中山昌喜, 高田雄三, 井上寛規, 櫻井裕, 細谷龍男, 金井好克, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2/BCRP の同定. *日本人類遺伝学会第55回大会*. 大宮, 2010.10.27-2010.10.30.
203. 松尾洋孝. 痛風の主要原因遺伝子 ABCG2 の同定. *第15回千葉尿酸懇話会*. 千葉, 2010.11.25.
204. Takada T, Matsuo H, Ichida K, Shinomiya N, Suzuki H. ABCG2/BCRP, a high-capacity urate transporter, is a major causative gene for gout. *第4回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム*. 東京, 2010.11.27-2010.11.28.
205. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史: 尿酸排出トランスporter-ABCG2は痛風の主要な病因遺伝子である. *第32回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム*. 富山, 2010.11.29-2010.11.30.
206. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中山昌喜, 池淵祐樹, 伊藤晃成, 高田雄三, 井上寛規, 河村優輔, 内海由貴, 櫻井裕, 細谷龍男, 金井好克, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥. 痛風の主要病因遺伝子の探索と同定. *BMB2010 (第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 合同大会)*. 神戸, 2010.12.7-2010.12.10.
207. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中島宏, 中山昌喜, 井上寛規, 高田雄三, 若井建志, 内藤真理子, 細谷龍男, 鈴木洋史, 櫻井裕, 浜島信之, 四ノ宮成祥. 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2 の同定と分子遺伝疫学的解析. *第21回日本疫学会学術総会*. 札幌, 2011.1.21-2011.1.22.
208. 松尾洋孝, 市田公美, 清水徹, 高田龍平, 中村好宏, 中山昌喜, 高田雄三, 井上寛規, 櫻井裕, 金井好克, 鈴木洋史, 浜島信之, 細谷龍男, 四ノ宮成祥. 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2 の臨床遺伝学的解析. *第44回日本痛風・核酸代謝学会総会*. 東京, 2011.2.17-2011.2.18.
209. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 井上寛規, 四ノ宮成祥, 鈴木晟幹. 痛風・高尿酸血症リスク遺伝子における迅速遺伝子検査法の確立. *第8回臨床福祉研究学術集会*. 東京, 2011.2.26-2011.2.27.
210. 高田雄三, 松尾洋孝, 井上寛規, 中山昌喜, 松村耕治, 四ノ宮成祥, 小林靖. 尿酸排泄トランスporter-遺伝子の迅速タイピング. *第21回生物試料分析科学会年次学術集会*. 松山 2011.2.19-2011.2.20.
211. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 中村好宏, 池淵祐樹, 伊藤晃成, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. 尿酸排出トランスporter-ABCG2/BCRP は痛風の主要病因遺伝子である. *日本薬剤学会第25回年会*. 徳島, 2010.5.12-2010.5.14.
212. 池淵祐樹, 伊藤晃成, 高田龍平, 安西尚彦, 金井好克, 鈴木洋史. Receptor for Activated C-Kinase 1 (RACK1)による BCRP/ABCG2 選択的な発現・局在

制御. 第5回トランスポーター研究会. 東京, 2010.7.10-2010.7.11

213. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. ABCG2/BCRP as a pharmacological target of hyperuricemia. 日本薬学会第131年会. 静岡, 2011.3.28-2011.3.31. (誌上開催)

214. 清水優佳, 山下和臣, 重本憲一郎, 原田知, 市田公美, 頼岡徳在. 運動後急性腎不全を合併した腎性低尿酸血症の一例. 第40回日本腎臓学会西部学術大会. 広島, 2010.10.8-2010.10.9.

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

発明の名称：尿酸トランスポーター，並びに，尿酸輸送関連疾患素因及び炎症関連疾患素因の評価方法及び評価キット，検査体及び薬. 特許出願中，発明者：松尾洋孝，高田龍平，鈴木洋史，池淵祐樹，伊藤晃成，市田公美，中村好宏，四ノ宮成祥.

2. 実用新案登録

該当無し

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍・総説

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
松尾洋孝, 四ノ宮成祥	腎性低尿酸血症の遺伝学	寺内康夫, 伊藤裕, 石橋俊	Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌	中外医学社	東京	2012	145-154
市田公美	健康診断で血清尿酸値の低い人がいます。何か不都合はありますか？	細谷龍男, 上田孝典, 藤森新, 山中寿, 山本徹也	高尿酸血症と痛風	メディカルレビュー	大阪	2012	78-80 (Vol.20)
松尾洋孝	痛風の遺伝素因を教えてください	細谷龍男, 上田孝典, 藤森新, 山中寿, 山本徹也	高尿酸血症と痛風	メディカルレビュー	大阪	2012	84-86 (Vol.20)
市田公美	尿酸代謝異常症の最前線		Bio Clinica	北隆館	東京	2012	124-129 (Vol.27)
市田公美	併存疾患別にみた高尿酸血症治療・管理のあり方 腎障害・慢性腎臓病（CKD）合併例	中村治雄, 島田馨, 原澤茂, 米本恭三, 川越光博, 渡邊寛	Progress in Medicine	ライフ・サイエンス	東京	2012	41-46 (Vol.32)
市田公美	尿酸代謝における最近のトピックス-尿酸代謝の新たな展開- Glucose transporter family member SLC2A9 と血清尿酸値	細谷龍男, 上田孝典, 藤森新, 山中寿, 山本徹也	高尿酸血症と痛風	メディカルレビュー	大阪	2012	109-114 (Vol.19)
市田公美	低尿酸血症		痛風と核酸代謝	日本痛風・核酸代謝学会	福井	2011	159-168 (Vol.35)
市田公美	腎性低尿酸血症		腎臓	日本腎臓財団	東京	2011	10-15 (Vol.34)

市田公美	腎における尿酸トランスポーター		日本医師会雑誌	日本医師会	東京	2011	316 (Vol.140)
高田龍平, 松尾洋孝	尿酸排出トランスポーターABCG2/BCRPと痛風発症リスク		生化学	日本生化学会	東京	2011	1131-4 (Vol.83)
松尾洋孝	高尿酸血症と腎輸送体		腎臓	日本腎臓財団	東京	2011	16-22 (Vol.34)
市田公美	尿細管疾患の臨床 遺伝性低尿酸血症		日本腎臓学会 誌	日本腎臓 学会	東京	2011	142-5 (Vol.53)
市田公美	尿酸トランスポーター	寺内康夫, 伊藤裕, 石橋俊	Annual Review 糖尿 病・代謝・内分 泌	中外医学 社	東京	2011	468-474 (Vol.33)
市田公美	高尿酸血症に伴う腎 障害		日本臨床別 冊・腎臓症候群	日本臨牀 社	大阪	2011	342-345
市田公美	キサントシン尿症		日本臨床別 冊・腎臓症候群	日本臨牀 社	大阪	2011	365-8
市田公美	腎性低尿酸血症(特発 性、続発性)		日本臨床別 冊・腎臓症候群	日本臨牀 社	大阪	2011	842-5

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kawamura Y, Matsuo H, Chiba T, Nagamori S, Nakayama A, Inoue H, Utsumi Y, Oda T, Nishiyama J, Kanai Y, Shinomiya N	Pathogenic GLUT9 mutations causing renal hypouricemia type 2 (RHUC2)	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1105-11	2011
Hamajima N, Okada R, Kawai S, Hishida A, Morita E, Yin G, Wakai K, Matsuo H, Inoue H, Takada Y, Asai Y, Mori A, Naito M	Significant association of serum uric acid levels with SLC2A9 rs11722228 among a Japanese population	Mol Genet Metab	103(4)	378-82	2011
Takeda Y, Abe A, Nakanishi S, Umezu M, Hirano K, Hayakawa H, Ohno I, Ichida K, Yamaguchi Y, Hosoya T, Fukagawa M	Two cases of nephrotic syndrome (NS)-induced acute kidney injury (AKI) associated with	Clin Nephrol	76	78-82	2011

	renal hypouricemia				
Sebesta I, Stiburkova B, Bartl J, Ichida K, Hosoyamada M, Taylor J, Marinaki A	Diagnostic tests for primary renal hypouricemia	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1112-6	2011
Shinohara Y, Suzuki Y, Hasegawa H, Nakamura M, Nishiyama T, Hiratsuka A, Ichida K	Stable isotope dilution mass spectrometric assay for PRPP using enzymatic procedures	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1140-6	2011
Hosoya T, Ohno I, Ichida K, Peters GJ	Gout and hyperuricemia in Japan: perspectives for international research on purines and pyrimidines in man	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1001-10	2011
Nakayama A, Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Ikebuchi Y, Ito K, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N	ABCG2 is a high-capacity urate transporter and its genetic impairment increases serum uric acid levels in humans	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1091-7	2011
Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Okada C, Sakurai Y, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N	Identification of ABCG2 dysfunction as a major factor contributing to gout	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids	30(12)	1098-104	2011
Hotta K, Kitamoto A, Kitamoto T, Mizusawa S, Teranishi H, Matsuo T, Nakata Y, Hyogo H, Ochi H, Nakamura T, Kamohara S, Miyatake N, Kotani K, Komatsu R, Itoh N, Mineo I, Wada J, Yoneda M, Nakajima A, Funahashi T, Miyazaki S, Tokunaga K, Masuzaki H, Ueno T, Chayama K, Hamaguchi K, Yamada K, Hanafusa T, Oikawa S, Yoshimatsu H, Sakata T, Tanaka K, Matsuzawa Y, Nakao K, Sekine A	Genetic variations in the CYP17A1 and NT5C2 genes are associated with a reduction in visceral and subcutaneous fat areas in Japanese women	J Hum Genet	57(1)	46-51	2012

研究成果の刊行物・別刷